



研究紀要

大村市立三城小学校

I 研究構想図

＜学校教育目標＞
感じて動く子どもの育成

＜本研究が目指す児童の姿＞

学習内容を確実に
身に付ける児童

自分の考えを豊かに
表現する児童

友達と一緒に
高め合う児童

＜児童の実態＞

- ・ 指示や発問の意図が正しく伝わっていない。
- ・ 学習直後は理解ができているが、時間が経つと定着できていない。
- ・ 学力の差が大きい。
- ・ 基礎的な力が身に付いているが、応用する力・表現する力に課題がある。
- ・ 文を書いて答えたり説明したりすることが苦手である。

＜研究主題＞

「分かった」から「伝えたい」子どもの育成
～読解力向上が深い学びへ～

＜研究仮説＞

子どものつまずきを予測して手立てを考えることで、学習内容を「分かった」と感じることができるであろう。

話す・書く活動を工夫したり、場の設定の仕方を工夫したりすることで、「伝えたい」と意欲をもって取り組むことができるであろう。

分かった

- ・ **読解力の視点**を取り入れた授業づくりをする。
- ・ 学力調査やレディネステスト等を活用してつまずくポイントを把握する。
- ・ 問題をしっかりとつかませる。
- ・ 児童に届く発問・板書の工夫をする。
- ・ 児童の言葉を生かしたためあてとまとめをつくる。
- ・ 学習規律を統一する。

授業づくり

伝えたい

- ・ 伝える場面を計画した単元の構成を仕組む。
- ・ ねらいに即した話す活動や書く活動を計画的に仕組む。
- ・ ペアやグループ活動の設定の仕方を工夫する。
- ・ 話す場の設定を工夫する。
- ・ 学力調査の問題を活用する。

＜学力調査の活用＞

(全国学力・学習状況調査 長崎県学力調査 大村市学力調査)
調査の実施 結果の分析 三城小の重点課題の把握・設定
基礎・活用タイムでの活用 練習問題での活用

II 専門部の取組

理論部の取組

○ 共通実践事項の確認

【教室の掲示物】

- ・ 教室環境作り
- ・ 板書カード
- ・ 板書の色使い
- ・ ノートの書き方

【板書・ノート指導】

【号令】

【はなまる筆箱】

○ 読解力の視点の確認

「長崎県読解力育成プラン」を基に、どのような問題分野があるのかを確認し、授業場面でどのような手立てがあるのかを紹介した。

⑤イメージ同定

- ・ 文章から読み取ったことを絵や図、表などを用いて整理させる。
- ・ 指定された文章に合う図やグラフを子どもたちが選択するような場面を意図的に設ける。

○ ペア・グループ活動の確認

「伝えたい」と感じるペア活動やグループ活動について、学習活動に応じてどのような仕組み方があるのかを整理し、確認した。

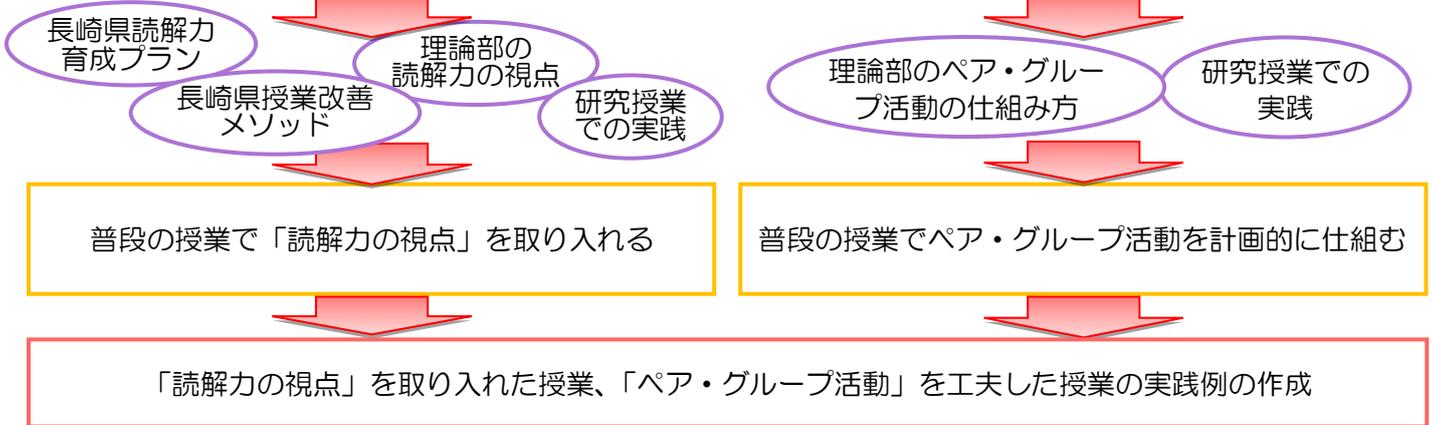
ペア	答えの確認 全体で伝え合う前の練習
グループ	多様な考え スペシャリスト学習

授業研究部の取組

- 読解力の視点を取り入れた授業や、ペア・グループ活動を工夫した授業の計画・実践
- 実践資料の作成

読解力の視点を取り入れた授業とはどうすればよいのだろう？

「伝えたい」子どもたちを育てるために、ペアやグループ活動をどのように仕組みればよいのだろう？



学力充実部の取組

- 各種学力調査の分析
- 各学年、三城小の重点課題の把握
- 基礎・活用タイムの計画・実践

県学力調査で課題となる問題を取り上げ、各学年の関連する単元を洗い出し、授業をとおして改善を図ることを全校で確認した。

令和2年度長崎県学力調査の分析（国語）

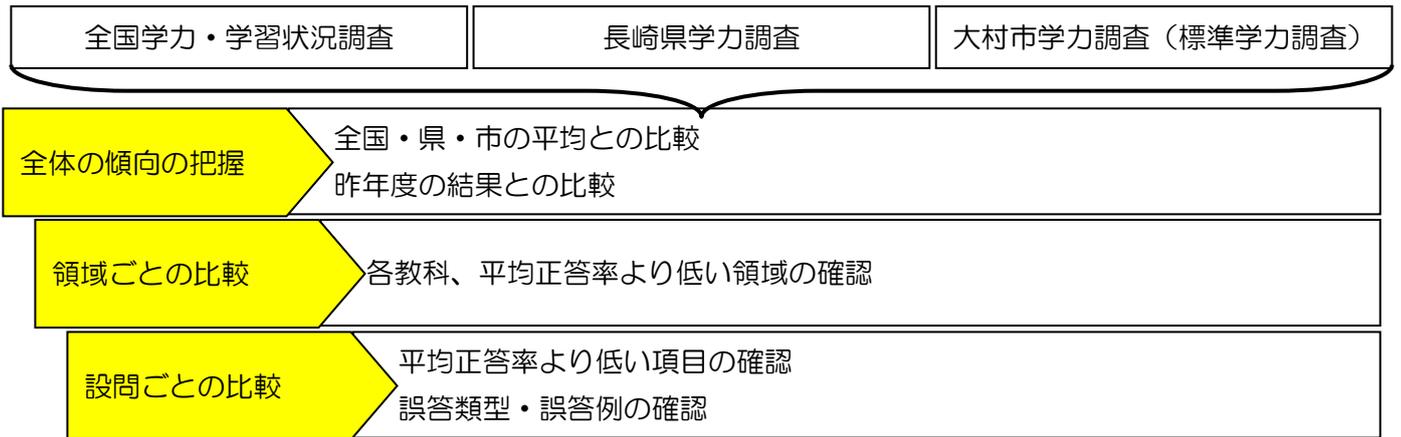
1ー（2）「相手や目的に応じて発表の方法を工夫する」（県…46.2% 本校…24.5%）
 ・ 正答例…「ぼうグラフにした方が人数の差が分かりやすくなるから。」
 ・ 誤答例…「グラフの方がわかりやすいから」
 <ポイント>
 「人数の差」が分かりやすくなることについて言及しているか

○各学年の関連単元

- 1年 「小学校のことをしょうかいしよう」
「すきなきょうかはなあに」
- 2年 「ことばで絵をつたえよう」
「すきな場所をおしえよう」
- 3年 「外国のことをしょうかいしよう」
- 4年 「調べたことをほうこくしよう」
- 5年 「資料を見て考えたことを話そう」
- 6年 「町の未来をえがこう」

Ⅲ 学力調査の活用

学力調査の分析から弱点の把握



目標の数値化

各学年の子どもの弱点項目から、今年度の大村市学力調査（12月実施予定）における、具体的な数値目標を立てる。

1年	学力調査において、全国平均より10ポイント以上低い項目が生じないことを目指す。
2年	「自分の思いや考えが明確になるように文章を書く」問題で、全国平均以上を目指す。 「文章問題を解くために立式し、正しい答えを求めることができる」問題で、全国平均以上を目指す。
3年	「指定された長さで文章を書く」問題で、全国平均以上を目指す。 算数の文章問題において、全国平均以上を目指す。
4年	「文章を書く」問題で、全国平均－10ポイント以内を目指す。
5年	「文章を書く」問題で、全国平均以上を目指す。 「数と計算」の領域で、全国平均以上を目指す。
6年	「書くこと」の「自分の意見を支える理由を明確にして書いている」問題で、全国平均－10ポイント以内を目指す。 「数と計算」記述問題で目標値（標準学力調査で設定されている値）－5ポイント以内を目指す。

授業に生かす

学力調査の結果から、昨年度のつまずきを確認する。



授業におけるつまずきを予想する。



授業における教師の手立てを工夫する。

基礎・活用タイム

毎週火曜に「基礎タイム」、木曜に「活用タイム」を設定し、各学年の子どもの実態に合わせて取り組む内容を選び、問題に取り組みせる。

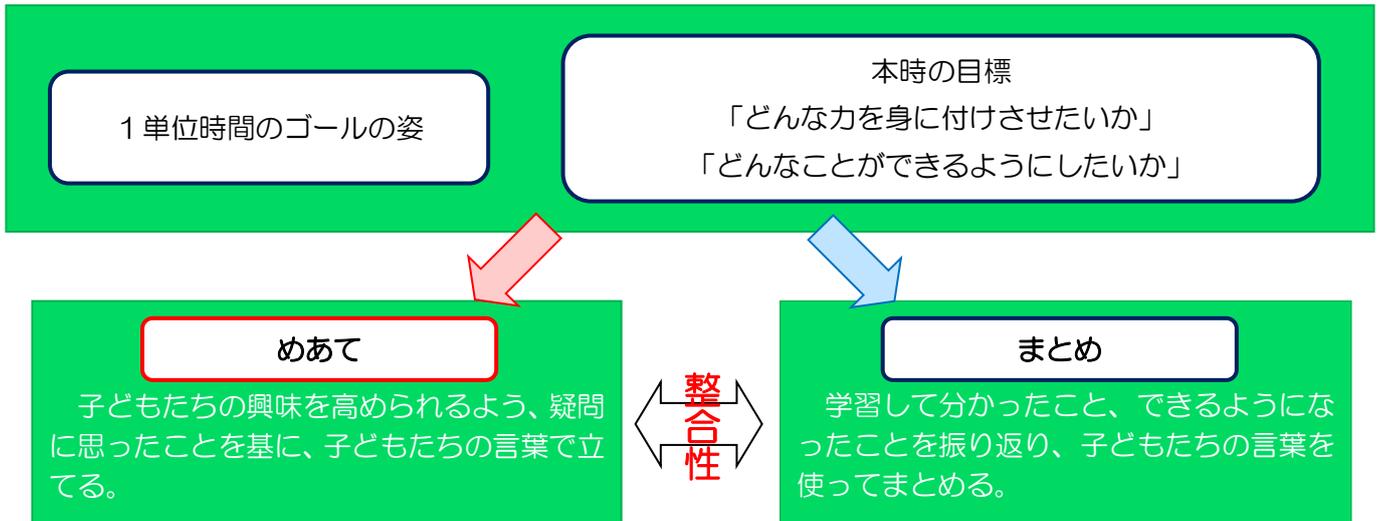
R3基礎・活用タイムカリキュラム（6年）

月	日	曜	教科・タイム	内容
6	1	火	国語・基礎	敬語
	3	木	国語・活用	手紙の書き方
	8	火	算数・基礎	分数のかけ算
	10	木	算数・活用	単位量当たりの大きさ
	15	火	国語・基礎	敬語
	17	木	国語・活用	委員会を紹介しよう(書くこと)
	22	火	算数・基礎	分数のかけ算
	24	木	算数・活用	平均とその利用
29	火	国語・基礎	修飾語	

Ⅳ 授業づくり①

分かった

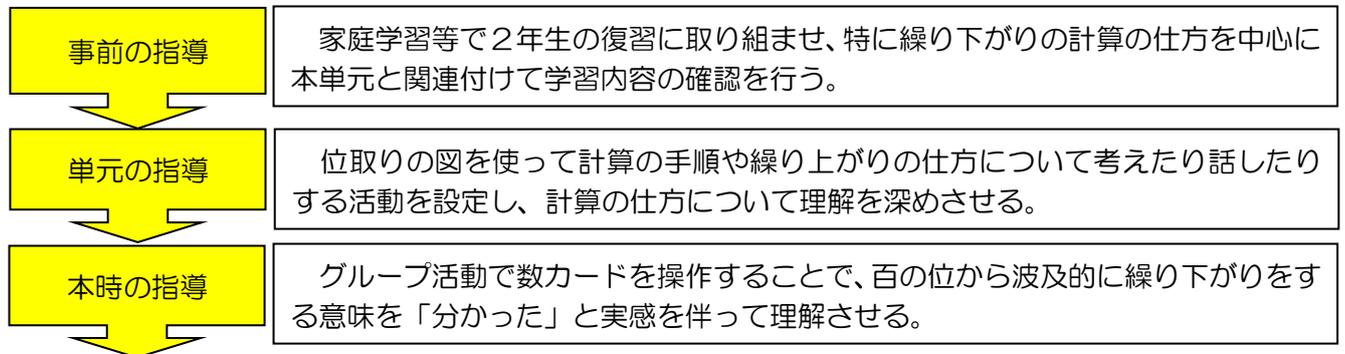
「めあて」と「まとめ」にこだわる授業づくり



学力調査を生かして子どものつまずきを予想

学力調査やレディネステストを生かして、本時（本単元）の学習場面で、子どもたちがどのようなところでつまずくのかを予想して、指導に生かす。

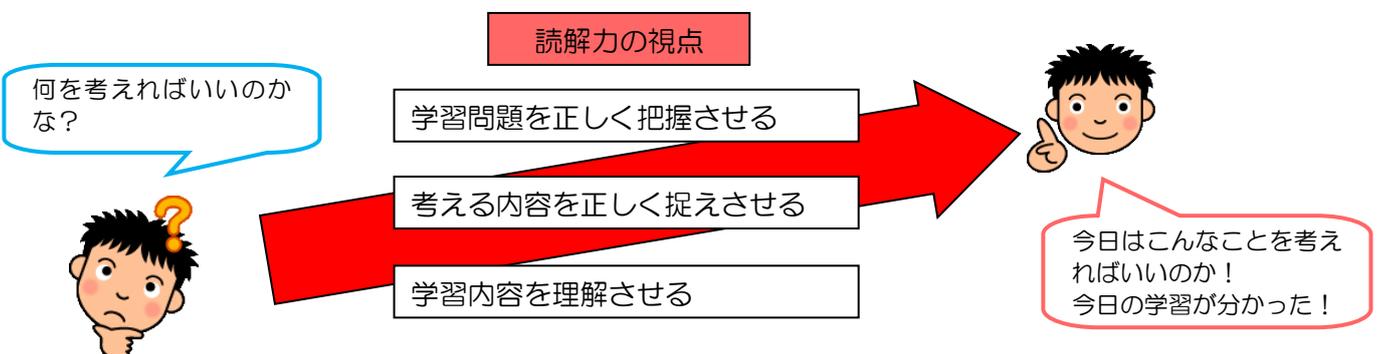
（例）3年 算数 「繰り上がり・繰り下がりのある計算で正答率が低い」



確実な理解の定着

読解力の視点を取り入れた授業改善

「教師が発言する内容が、子どもに正しく伝わっていないのではないか」という考えから、教師の指示や学習内容を子どもたちが正しく理解できるよう、手立てを工夫する。



伝えたい

単元の仕組み方

単元の目標

単元を通してどのような資質・能力を高めるのか、学習指導要領を基にして目標を立てる。

単元の評価規準

単元のゴールとしてどのような子どもの姿を思い描くのか、指導と評価の一体化のための資料を基に、評価規準を設定する。

単元の指導計画

単元を通して子どもたちの学習が構築できるよう、単元を通してためあてを設定したり、同じ流れで指導を繰り返したりする。

国語科の学習では、単元を見通してどのような学習を進めていくのかを子どもたちにも把握させるため、「学習の最後にはリーフレットを作る」というような単元のゴールの姿を伝えたり、単元名を工夫して興味を高めたり、意欲を継続したりできるようにする。

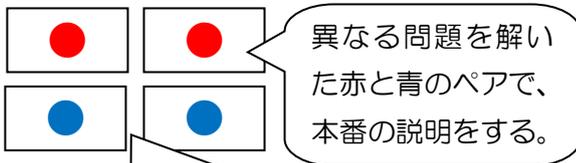
- (例) 2年 国語 「めざせ！せつめい名人！～ことばで絵をつたえよう～」
- 5年 国語 「ここが面白い！

<注文の多い料理店>のリーフレットを作って紹介しよう」

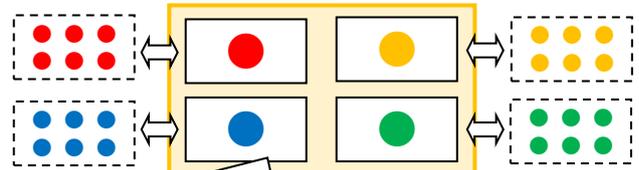
ペア・グループ活動の設定の仕方を工夫

ペアの活動を練習、発表と使い分けることで、話すことへの意欲を高めたり、本時の目標を達成する手立てとしたりする。

グループ内で役割をもたせ、自分で考えたり、他のグループの同じ役割の子どもと話し合ったりすることで、グループでの話し合いを充実させる。



同じ問題を解いたペアで説明を考え、説明の仕方について練習したり相談したりする。



グループの中で役割分担が違うため、自分が担当した答えを考えたり話し合ったりして、伝えようとする。

ねらいに即した書く活動

(以前の指導)

- 板書を全て書かせる。
- 自分の考えを全て書かせる。



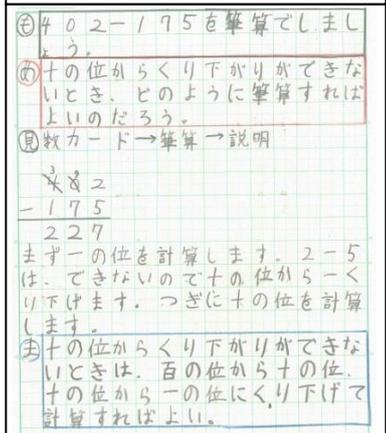
全部書けるかな？
書くことに集中！

書く量、書く内容を考え、「本時の目標」に照らして、必要なものを精選して書く活動に取り組みさせる。

ペアで話す時間やグループで話し合う時間の確保



ノート例

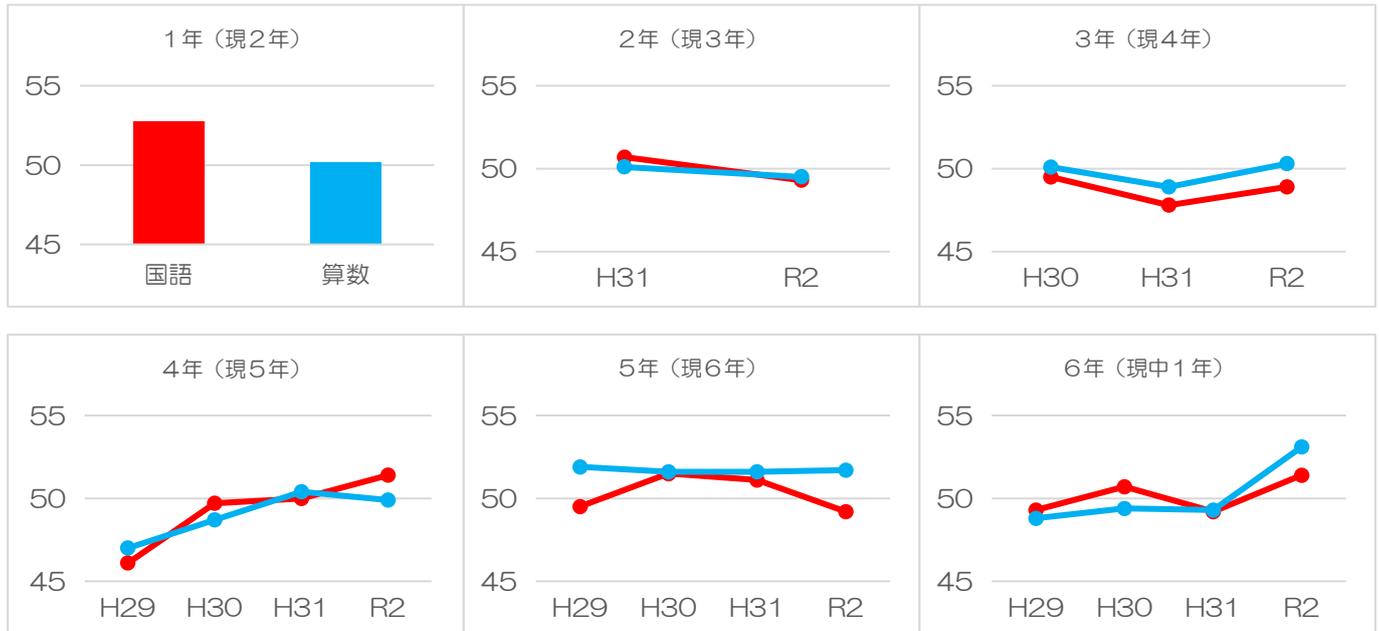


VI 成果と課題

全国学力・学習状況調査				長崎県学力調査			
年度	教科	全国平均	差	年度	教科	県平均	差
R3	国語	64.7	6.3	R3	国語	60.0	9.0
	算数	70.2	2.8		算数	64.9	0.1
H31	国語	68.8	-0.8	R2	国語	51.7	2.4
	算数	66.6	-0.6		算数	57.8	3.3

※表内の数値は正答率(%)

大村市学力調査 (R2.12実施)



※ 同一集団の経年比較。学年はR2年度時点のもの。
赤線は国語、青線は算数の標準スコア (全国平均を50とみたときの値)

本年度、全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査ともに、全国や県の平均を上回る結果となった。全国学力では算数の「図形」の領域(面積を求める)で課題が見られた。県学力では、国語の「読むこと」、「書くこと」、算数の「数と計算」の領域で課題が見られた。大村市学力調査の内容と比較しても、学年として苦手としている分野の平均正答率が低くなっている。記述問題についても他の問題と比較して正答率が低くなっている。成果が見られた部分については指導を継続しながら、課題である表現する力について更に向上できるようにしていきたい。

○ 成果

- 学力調査を基に弱点を把握し目標を立てることで、指導法が明確になった。
- 学年の課題を捉えることで、学年で統一した指導法を確認するなど、共通実践につながった。
- 読解力の視点を取り入れた研究授業の実践を通して、普段の授業で提示の仕方をどのように工夫すれば子どもに正しく伝わるのかと考えるようになり、授業改善につながった。

○ 課題

- 書く力、表現する力にはまだ課題があるので、「書く活動」「話す活動」を意図的に仕組んでいく。
- 正しい読みが十分にできていないので、読解力の視点を教師が使うことで、子どもたちが図に表したり大事なところに印を付けたりできるようにしていく。
- 時間が経つとできなくなることも多いので、計画的に問題に取り組ませることで更なる定着を図る。
- 教科を絞らない研究を行ってきたので、今後、各教科の指導についても研究を深めていく。